

やすらぎ



私たちは地域と病院をつなぎ
皆さんの安心をサポートします

当院 地域連携室スタッフ

急速な高齢化社会の到来に伴い、国は病院・診療所等との機能分担と、連携を進めることによる地域完結型の医療提供を目指しています。当院も地域完結医療の実現に向け、医療連携の強化に努めています。

地域連携室の業務は地域の診療所、病院等との連携を推進する役割を担っ

安心して
受診していただくために

地域連携室

- ◆安心して受診していただくために… P 1
- ◆皮膚科のご紹介 … P 2
- ◆最新型CT装置を導入 … P 2
- ◆肺炎・インフルエンザにご注意を… P 3
- ◆出張がん相談イベントを初開催！… P 4

ており、現在は看護師6名、医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）7名、事務4名で業務を行っています。業務は大きく「前方連携」と「後方連携」の2つに分けられます。

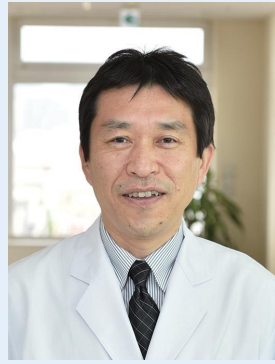
「前方連携」は地域の医療機関からの診療・セカンドオピニオン等の予約、紹介元への検査結果及び診療状況の報告、逆紹介時かかりつけ医を探すお手伝い等、患者さんが受診・入院する際の窓口になります。また、開業医の先生からのお問い合わせ等、市民病院へのコンタクト時全ての「窓口・入り口」の役割を担います。

「後方連携」は、入院患者さんが当院での目的の治療を終えた後、病気や障害を抱えながらも地域で安心して生活ができるよう退院支援を行います。自宅に帰っても治療、看護が必要な方には、在宅医の紹介、介護保険サービス・障害福祉サービス等を利用できるよう、患者さんやご家族と一緒に相談しながら支援します。

地域連携室が、地域の医療機関や福祉関係機関等と当院をつなぐ窓口になることで、患者さんがより安心して、受診や入院から退院後の生活まで継続性のある心に響く医療・福祉サービスを受けていただけるようになります。不安な事、わからない事があれば、お気軽にお声かけください。

皮膚科のご紹介

皮膚科部長 加納 宏行



昨年4月から、前部長の米田先生を引き継いで、現在常勤医師3名(全員日本皮膚科学会認定専門医)で外来・入院の診療にあたっています。私自身は市民病院に赴任する前は9年半の間岐阜大学病院に勤務し、日本アレルギー学会認定専門医としてアトピー性皮膚炎を始めとする皮膚アレルギー疾患、そして全身性エリテマトーデスや強皮症といった膠原病の診療に力を入れました。

受容体の抗体製剤)が使えるようになり、難治性アトピー性皮膚炎の治療に劇的な変化をもたらしました。現在、このような抗体製剤(生物学的製剤ともいいます)は各種疾患で使われる様になりましたが、非常に高価なのが欠点です。当科では金曜の午後にアレルギー・膠原病の専門外来を開設し、アトピー性皮膚炎の病態・治療について個別にレクチャーして、十分な時間をかけて患者さん一人ひとりの状態に応じた治療法の選択・指導を行っています。「デュピクセント」による治療を行う場合でも、その効果を最大限に引き出すよう工夫をしています。また、日本皮膚免疫アレルギー学会、アトピー性皮膚炎研究会の代議員・世話人として、常に国内外の専門家の最新の情報を入手・発信し治療に役立てるよう努力しています。アトピー性皮膚炎は1〜2週間の教育入院も行っていますので、ご希望の方はかかりつけ医の紹介状をもらって受診してください。

一方で、我々が診察したら実は皮膚筋炎だったという事例がありました。初期段階で診断することにより進行を遅らせたり、早期に内臓病変を発見して総合内科などと緊密に連携して治療にあたったりしています。人口の高齢化に伴い高齢者の皮膚癌が増加しています。たかが皮膚の癌と思われるかもしれませんが、癌の種類によっては全身に転移して命を落とすこともあります。皮膚癌に限りませんが、早期に発見して治療すれば大事に至ることはまれです。逆に長期間放置すれば転移の危険性のみならず、皮膚癌特有の問題、例えば癌により皮膚に穴があいて出血が止まらないという事も生じます。疑わしい場合は必ず皮膚生検(3〜4ミリメートルの皮膚を取って病理検査をすること)を行い診断します。人生100年時代と言われる現在、90歳の方でも条件が許す限り外科的切除を行う方針で治療しています。

最後に、市内およびその周辺には優秀な皮膚科クリニックが多くあります。気になる症状があればまずはお近くの皮膚科クリニックへ行き、必要な場合には紹介状をもらって当院皮膚科を受診されることをお勧めします。

最新型CT装置を導入

中央放射線部



当院では、最新型CT装置を導入し令和元年10月より検査を開始しました。新しいCT装置は、見た目は従来の装置と同じで、患者さんが横になる検査台を取り巻くドーナツ型装置です。異なるのは、従来のCT装置は1種類のX線で撮影するものですが、今回導入した装置は2種類のX線で撮影ができます(Dual-Energy CT)。1つの対象を2種類のX線で撮影し、その透過状況(線減弱係数)の違いを比較・解析することで様々な新しい定量画像や解析画像が得られます。2種類の異なるエネルギーのX線の

透過状況の違いを利用して、物質成分の特定が可能となります。例えば、尿管結石ではシウウ酸カルシウム結石（85%）と尿酸結石（10%）が鑑別できます。シウウ酸カルシウム結石はESWL（衝撃波をあてて結石を砕く治療法）あるいは摘出が治療ですが、尿酸結石は薬物溶解の適応になりますので、CTによる解析結果が治療方針の一助となります。また、肺塞栓症（肺の動脈に血液の塊が詰まる病気）では血管内に注入した造影剤成分であるヨードの存在部位を特定できますので、血管が詰まり血流のない領域を明瞭に画像化し、診断の向上や治療効果判定に役立ちます。（図1）

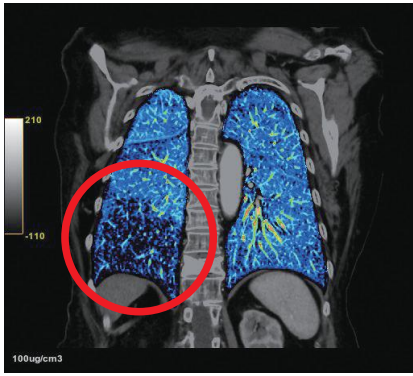


図1 肺塞栓症のCT画像

さらに、手術で金属の人工物が入ると、従来のCTではその周囲の正確な画像が得られませんが、2種類

の異なるエネルギーのX線を用い解析することで、より鮮明な画像が得られるようになります。（図2）
最後に、今回のCTに導入されたX線検出器はガーネット（1月の誕生日）という素材が使用されており、従来の検出器に比べ約2・5倍の情報量を得ることができ質の良い画像が提供できます。

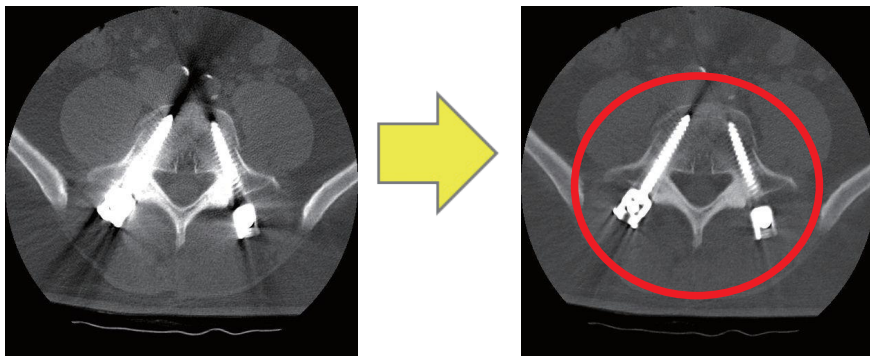


図2 金属の人工物が入ったCT画像

**肺炎・インフルエンザに
ご注意を**
感染対策室

肺炎球菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などによって飛沫感染し、気管支炎や肺炎、敗血症などの重い病気を引き起こすことがあります。また、莢膜（きょうまく）という分厚い膜に包まれており、なかには、抗菌薬（抗生物質）が効かない菌があり、重症化しやすいため感染予防にはワクチンが有効です。

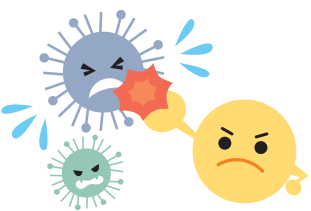
また、肺炎と併せてこの時期に注意が必要な感染症として、インフルエンザがあります。例年、1月から2月にかけて最も多い時期になります。突然発症して、39℃以上の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等の全身症状が強く、同時に風邪のような症状もです。また、感染力が強いので、大流行しやすく、高齢者や、慢性疾患（心臓、肝臓病、呼吸器の病気、糖尿病、腎臓病など）を持つ人は重症化しやすく死亡率も高くなります。高い熱が出て体のあちこちが痛くなると、きつくて食事もとれなくなり、すぐに脱水になってしまい、ますます抵抗力が落ちて他のバイ菌に

もかかりやすくなります。

インフルエンザは、空気中にばらまかれたウイルスを吸い込むことで感染しますので、咳がある場合は必ずマスクを着けましょう。また、人混みでできるだけ避けて、うがい・手洗いや人がよく触る場所（手すり、スイッチ、ドアノブなど）の拭き掃除もおこない、ウイルスを周りに広めないようにしましょう。予防のワクチンをうっておくことも大切で、かかった場合は重篤になりませんが、効果がでるまでには2週間程度かかり5カ月間持続します。

肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチンは、ともに接種することで発症することはありません。

感染症を広めないためにも、体調不良を感じたら、早めに医療機関を受診しましょう。感染予防は、一人ひとりの予防行動が重要です。



**カラフルタウン岐阜で
「出張がん相談イベント」
を初開催!**

令和元年10月22日(火・祝)、カラフルタウン岐阜において岐阜市民病院の出張イベントを初開催しました。これは、岐阜市とカラフルタウン岐阜の運営会社が締結した地域活性化に関する包括連携協定により実現しました。

当院は、院内に「がん相談支援センター」を設置しており、当院に受診している方やその家族だけでなく、地域のどなたでも、がんに関するあらゆる相談を無料で受けられます。また、がん相談支援センターは、がんに関する正しい情報の発信拠点の役割も担っています。

今回は、がん相談支援センターや正しいがん情報を多くの方に知ってもらうこと、当院をより身近に感じてもらうことを目的に、医療者による相談コーナーやミニレクチャー、パネル展示や資料の配布、体験型イベントなどを開催し、多くの方に参加いただくことが出来ました。

来年度も開催を予定しています。決定次第、当院ホームページでご案内の予定となっております。



診療科のご案内

- 診療科目**・・・内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、呼吸器・腫瘍内科、消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、精神科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、リハビリテーション科、歯科、歯科口腔外科

○**休診日**

土・日・祝日と12月29日～1月3日
※詳細はホームページでも紹介しています。
市民病院ホームページ <https://gmhosp.jp/>



岐阜市民病院

〒500-8513 岐阜市鹿島町7丁目1番地
TEL 058-251-1101(代表)
編集発行：岐阜市民病院 広報委員会

市民のためのがんセミナー

参加無料

日時 令和2年3月28日(土) 午後1時～午後4時

会場 当院西診療棟4階 サルビアホール

テーマ 「AYA世代・働き世代の治療と社会生活の両立を考える～就労・就学・家庭のこと～ (仮)」

講師 東京都立小児総合医療センター 血液・腫瘍科 松井 基浩
全国がん患者団体連合会理事長 天野 慎介
NPO法人愛媛がんサポートおれんじの会理事長 松本 陽子
湘南ベルマーレ選手、日本肺癌学会広報大使 久光 重貴

申込方法 電話(平日の午前8時30分～午後5時15分)、FAX、当院ホームページの市民公開講座申込フォーム、又は郵送にてお申込みください。

問い合わせ先 岐阜市民病院 病院政策課

〒500-8513 岐阜市鹿島町7-1
電話：058-251-1101(内線4309) FAX：058-252-1335